

審 議 事 項

| | | 頁 |
|-----------|-----------------------------|---|
| I 審議事項 | | |
| 1 シンポジウム等 | 提案1 日本学術会議緊急講演会「放射線を正しく恐れる」 | 1 |
| | 提案2 日本学術会議北海道地区会議主催講演会 | 3 |

| | |
|-----|-------|
| 1 | |
| 幹事会 | 1 2 6 |

提 案

日本学術会議緊急講演会「放射線を正しく恐れる」の開催について

1. 提案者 東日本大震災対策委員会委員長
2. 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：東日本大震災対策委員会
2. 日 時：平成23年7月1日（金）10：00～12：30
3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 開催趣旨：

東日本大震災後、放射能や放射線に関する様々な情報が大量に発信され、多くの国民は放射線の身体への影響等に関する漠然な不安を日々感じている。本緊急講演会は、放射線に関する第一線の研究者の講演並びにパネル討論により、国民へ現時点での正しい情報を伝え、国民の不安の解消を図るとともに、国民の放射線へのリテラシーの向上を図ることを目的とする。

5. 次 第：

司会 唐木英明（日本学術会議副会長、東京大学名誉教授）

第一部 10:05～10:45 放射線の健康に対する影響

10:05～10:25 講演1. 放射線の発がん作用についてのいくつかの考え方

丹羽太貫（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

10:25～10:45 講演2. 少量の放射線は身体に良いというのは本当か？

山岡聖典（岡山大学大学院保健学研究科・放射線健康支援
科学領域教授）

第二部 10:45～11:20 放射線から身を守る仕組み

10:45～11:05 講演3. 国際放射線防護委員会（ICRP）の勧告の意味

佐々木康人（日本学術会議連携会員、(社)日本アイソトープ協会常務理事）

11:05～11:20 講演 4. 非常事態にどうすべきか

柴田徳思（日本学術会議連携会員、日本原子力研究開発機構 J-PARC センター客員研究員）

第三部 11:20～12:30 パネル討論（聴衆からの質問を中心に）

6. 関係部の承認の有無：第二部承認

| | |
|-----|-------|
| 2 | |
| 幹事会 | 1 2 6 |

提 案

日本学術会議北海道地区会議主催講演会の開催について

1. 提案者 科学者委員会委員長
2. 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議北海道地区会議，北海道大学
2. 共 催 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター
3. 後 援 北海道（予定），札幌市（予定）
4. 日 時 平成 23 年 8 月 4 日（木） 13:30～17:30（予定）
5. 会 場 北海道大学学術交流会館・小講堂

6. 概 要

(テーマ)

「グリーンイノベーションと地域社会システム

—21 世紀の新たな科学技術と人間・社会の接点を求めて—

(開催趣旨)

現今の環境・資源・エネルギー・IT 分野の革新的な技術の発展はめざましいものがあり、これらの新技術を活かした、自然を保全・再生し環境変化に適応しながら人間社会の持続可能な発展をも同時に実現してゆく新たな生活様式や産業活動の開拓は、グリーンイノベーションと呼ばれ、それに伴う社会システムやライフシステムの転換をも迫りつつある。このような 21 世紀的革新の科学技術的側面は、すでに本地区会議の 2010 年 11 月 15 日講演会「北海道から発信するグリーンイノ

バージョン」においても多角的に紹介・議論されたところであり、そこでは太陽電池、地中熱ヒートポンプ、ナノテクノロジー、太陽光エネルギーと光触媒技術などの開発による環境に優しい技術と IT 等を含めた生活基盤整備の新たな可能性が示された。

このような科学技術の新たな発展を承けて、それでは成長と拡大を軸として来た既存の社会システムやライフシステム、とりわけ我々の生活に密着した地域社会のあり方は、どのようなインパクトを受け、どのようにそれに対応し、どのような人間や社会の革新を目指すことになるのだろうか。ここでは人文・社会科学のパラダイム変化を見据えた新たな学問的視点の開拓とその応用となる様々な社会制度との接合も要請されている。

そこで、本企画は、上記の地区講演会企画の延長線上で、このような技術革新を社会システムの側はいかに受け止めるかというテーマのもとでそのインパクトを探ると共に、この技術革新が社会、特に地域社会、特にこの北海道にもたらす影響や変化、あるいは将来の意義などをめぐって、行政、経済、地域構造の3つの側面から考えてみたい。すなわち、ここでは、グリーンイノベーションとそれに伴う社会的便益の分配を適切に管理・統御する行政システムの構築の可能性、グリーンイノベーションを展開し新たな産業や雇用の創出に接続させる市場システムの促進の可能性、グリーンイノベーションを活用して社会福祉を伸展させ地域の人々を支えるコミュニティシステムの再構築の可能性などが重要な問題となる。そして、これらのテーマをめぐって、それぞれの分野において北大を拠点に全国的にも知られた研究を展開している方々に、科学技術や人文・社会科学の最新の成果を基にしながら、グリーンイノベーションから生まれる新たな地域社会システムの展望を語ってもらう。

(プログラム)

開会の挨拶及びテーマ説明：

長谷川 晃（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院法学研究科教授）

挨拶又は講演：日本学術会議副会長（未定）

<第1部 講演>

講演1：「グリーンイノベーションが社会システムに問うもの」（仮）

小柴 正則（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院情報科学研究科教授）

講演2：「グリーンイノベーションと地域行政システム」（仮）

山崎 幹根（北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授）

講演3：「グリーンイノベーションと地域経済システム」（仮）

橋本 努（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院経済学研究科教授）

講演4：「グリーンイノベーションと地域構造システム」（仮）

金子 勇（北海道大学大学院文学研究科教授）

コメント

長島 美織（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授）

<第1部 総合討論>

パネルディスカッションとフロアとの質疑応答

司会： 長谷川 晃

講演者及びコメンテーターほか

閉会の挨拶

岸 玲子（日本学術会議会員・北海道地区会議代表幹事、北海道大学環境健康
科学研究教育センター長・特任教授）